

仮定法 指導案

学び直しから始めるクラス

偏差値のめやす ~40程度

3コマ+帯活動／論理・表現Ⅰ（高2・2学期）※英語コミュニケーションⅡの帯活動にも転用可

単元の目標

事実と違う「もしも」を、If I were you, I would _____. と I wish I could _____. の2つの型で言える・書ける。中学で学んだ仮定法過去を、高校生の場面で使い直す。

評価規準 この帯で、この単元をどう見取るか

知識・技能	仮定法過去（If+過去形, would+動詞の原形）と I wish の形と意味を理解し、型に沿って自分の文を書く技能を身に付けている。
思考・判断・表現	自分の身近な「もしも」について、型を使って1文以上で伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	型や板書の語群を手がかりに、書いた文を読み返して直したり、友だちの文を参考にして書き足したりしながら、自分の「もしも」を伝えようとしている。

この帯では「型どおりに1文書けたら知識・技能は満点」で運用します。仮定法過去完了は評価対象に入れません—英コミの本文で出会ったときに扱えば十分です。定期テストの出題も仮定法過去と I wish に絞ることを学年会で確認しておく、指導と評価がそろう。小テスト（基礎）の大問1(3)だけは過去完了なので、この帯では配点から外し（21点満点）、答えを板書して写させる問題として扱ってください。

単元計画 全3コマ+帯活動

時	ねらい	主な学習活動	使う教材
0	前提づくり—中学の仮定法を思い出す	中学版の仮定法教材で If I were you / I wish を音読→穴埋め。「過去形なのに今の話」をここで一度通す	中学版 仮定法（無料）
1	現実からの距離をつかむ	見取り図の「気づき」を全員で音読→整理表は仮定法過去と I wish の2行→確認問題(1)～(3)を全員で解く（学び直し版は確認3問）	見取り図（学び直し）
2	型を借りて1文書く（本時）	ドリル大問1を2人1組→表現ワーク「型で書く」(3) I wish の1文を全員完成→黒板に並べる	定着ドリル（基礎）／表現ワーク（基礎）
帯	テスト自体を練習にする	小テストを見取り図持ち込み可で1回目→日を空けて持ち込みなしで2回目。点は2回目を取る。大問1(3)（過去完了）は採点から外し、21点満点で扱う	10分小テスト（基礎）

教材 この指導案で使う紙（どの版を・どこで）

見取り図プリント（学び直し）	1時間目。整理表が2行なので、板書を写す時間が要らない
定着ドリル（基礎）	本時の大問1。早く終わったペアは大問2（（ ）の語を過去形に）へ。ヒントつきなので最後まで進める
表現ワーク（基礎）	本時の「型で書く」(3)。____だけ自分のことばにする
10分小テスト（基礎）	後日の帯。1回目は見取り図の持ち込み可。大問1(3)（過去完了）は採点対象から外す
中学版 仮定法の教材	0時間目の前提づくり。ユニットページの「中学の学び直し」リンクから

仮定法 指導案 | 本時の展開

本時 2時間目／全3時間（前提づくりの0時間目を含む） 本時の目標：I wish のI文を、全員が自分のことばで書き上げる。

時間	学習活動（生徒）	指導上の留意点・評価
5分	前時の型を音読する（If I were you, I would ... / I wish I could ...）	教師のあとに続けて2回。ここは全員が声を出せる場面として設計する
10分	定着ドリル（基礎）大問1を2人1組で解く（終わったペアは大問2へ）	机間指導。迷っているペアには「今のこと？ それともちがう世界の話？」の1問だけ返す
5分	答え合わせ。誤答の多かった問題だけ全体で確認する	×の数を数えさせない。直せたら○にする運用を最初に宣言しておく【知識・技能／記録に残さず指導に生かす】
15分	表現ワーク（基礎）の「型で書く」(3) I wish I could _____. を書く	動詞が出てこない生徒には黒板の語群を指させる。書けた生徒には2文目を促す
10分	書けた文を短冊に写して黒板に貼り、全員で読む	短冊は名前を書かせない（貼ることへの抵抗を下げる）。読み上げは希望者を指名するが、ここでは評価しない
5分	今日書いた文をノートに1回書き写して終わる	ノートは回収し、【思考・判断・表現】と【主体的に学習に取り組む態度】をこのI文と直しの跡で一体的に見取る。次の帯の小テストがこの型から出ることも予告する

板書計画 左から順に残す

1. （左）型を2つだけ：If I were you, I would _____. / I wish I could _____.
2. （中）語群：sing well / cook / swim / fly / sleep more / speak English
3. （右）生徒の文を貼る場所―授業のはじめは空けておく。ここが埋まることが本時の成果そのもの

つまづき この帯で必ず出るものと、その場の手立て

見取り（こう出る）	手立て（こう返す）
「もし」と見ると、何でも would を書く	「あしたの天気」の文を1つ板書して並べて見せる（ありうる話は現在形+will）。ここは日本語で説明してよい
were が出てこず was と書く	×にしない。「テストでは were と書けば安全」とだけ添えて、内容の評価は落とさない
書き出して手が止まる	_____. に入りたい語を日本語で言わせ、教師が英語を板書して写させる。まずI文完成を優先
would のあとに ing や to を付ける	「would のうしろは、辞書の見出しの形」と言い換える。原形という用語より通じる

この帯の勘どころ 仮定法過去完了はこの帯では扱わない判断があってよい。I wish のI文が自力で書けたら、この単元は**達成**です。宿題を前提にせず、書く時間は必ず授業の中に取ります。3コマかけることを「遅い」と考えないでください―ここで書けたI文が、次の単元の足場になります。

